

グローバル
眼の

世界第2位の経済大国となった中国では近年、経済成長率が鈍化している。一方、デジタル技術を中心とする「チャイナテック」の躍進が目指す「質の成長」の原動力となっている。

中国ではスマートフォンにあるさまざまなアプリを通じて、デジタル技術の活用がすでに人々の生活に深く根付いている。拡大し、国内総生産（GDP）に占める割合は19年に36・2%に達している。

「財布を無くすより、スマホを失くすほうが深刻」と言われるほどだ。

こうした中、中国政府は現在、生活消費関連分野のデジタル化を行政や産業などのセクターへと広げ、社会経済全体のデ

「質の成長」の原動力

デジタルシフトを目指す中国の方向性は毎年公表される政府活動報告から読み取れる。ここ数年は、インターネットをあらゆる

産業と融合するインターネットプラスや、プラットフォーム経済、工場の無人化・スマート製造などが強調されている。

とりわけ、以前のインターネットをあらゆる

国からの特許出願件数が増え続け、世界トップの座を占めるようになってきている。新型コロナウイルスとの闘いにおいても「ABCD5G」が感染の拡大防止に一役買った。このように、かつて驚異的な経済成長を果たしながらも、技術後進国と見なされていた中国は、生まれ変わり始めている。チャイナテックは中国の社会や経済の変貌だけでなく、グローバルな競争環境にも多大な影響を与えていることは間違いないだければ幸いです。

中国のデジタルエコノミー規模推移			GDPに占める割合
2002年	1.2兆元 (19兆2000億円)		10.30%
2005年	2.6兆元 (41兆6000億円)		14.20%
2008年	4.8兆元 (76.8兆円)		15.00%
2011年	9.5兆元 (152兆円)		20.30%
2014年	16.2兆元 (259.2兆円)		26.10%
2015年	18.6兆元 (297.6兆円)		27.50%
2016年	22.6兆元 (361.6兆円)		30.30%
2017年	27.2兆元 (435.2兆円)		32.90%
2018年	31.3兆元 (500.8兆円)		34.80%
2019年	35.8兆元 (572.8兆円)		36.20%

(出所)『デジタルエコノミー発展ホワイトブック』(中国情報通信研究院)を基に作成 (1元=16円で換算)

ラムで紹介した「ABC D5G」に代表されるデジタル技術の飛躍は要注目だ。Aは人工知能(AI)、Bはブロックチェーン(Blockchain)、Cはクラウド(Cloud)、Dはビッグデータ(Data)、5Gは第5世代移動通信システムで、いずれもチャイナテックのコア技術だ。中国は国家レベルでこれら先端技術の推進政策を策定し、技術の商用化、関連産業の育成、市場拡大に力を入れている。実際、AIやブロックチェーンにおいて、中



伊藤忠総研
産業調査センター
主任研究員

趙瑋琳